

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277101693		
法人名	(有)ありずう		
事業所名	グループホーム なの花		
所在地	静岡県浜松市中区早出町1200-25		
自己評価作成日	令和2年10月12日	評価結果市町村受理日	令和3年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=2277101693-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年11月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員一人一人が入居者と生活を共にしている事を意識し、家庭的な雰囲気大切に一緒に過ごしている。気持ちよく生活ができるように毎日、掃除を行い清潔を保っている。ほぼ全員の入居者、ご家族がここでの看取りを希望されており、ADLの低下や体調の変化があればその都度、面談や聞き取りを行い、ご本人、ご家族も安心して終末期を迎えられるよう支援している。外出ができない為、手作りゼリー、流しそうめん、工作など、室内で楽しめる行事に力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から18年と歴史が長く、現在の管理者も17年勤務(管理者となつてからは6年)、とにかく職員が「お年寄りが好き」という人で占めているという、創成期の宅老所を想起させる貴重な事業所です。日中は鍵をかけず、家族が自由に入出入りしており、「親身」「明るい」「親切」「清潔」etc.と、アンケートに踊る職員賛辞には、家族の理解が得られる真摯な姿勢がフロアに満ちていることが滲みます。寝たきりや車いすとなつても、また終末期に入つても、たとえ飯は食べれなくても、リビングでさざめき合う人の中で過ごしてもらえるよう職員総意であたり、来る正月には恒例となつたおせちづくりに皆で取組む予定です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めの勉強会で理念の確認をしているが全職員が実践にはつなげられていない。	現在の管理者が責任者となった折に、改めて職員が見直して考えた理念です。「その人らしい暮らしがあるように」を基軸とし、ズボンの裾上げやボタン付けを嬉々として取組んだり、晩酌に舌鼓を打つ人、毎日お風呂に入る人などの日常を支えています。	毎月の会議で話し合っていますが、達成度が明瞭となるよう、月間目標などの導入を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入している。地域の防災訓練や行事には参加させていただいているが日常的な交流は少ない。	自治会には地域の一人として加わり、民生委員からは「いきいきサロン(地域の高齢者の集まり)」にも声をかけてもらい、小さいながらも交流を続けています。また、法人内のデイサービスに通う人(近所)からは手作りマスク50枚の寄贈を受けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談は随時受け付けているが、今のところ相談のみの利用はない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	質疑応答の時間を設け、現場の意見や他施設の情報を聞き、サービス向上に活かしている。	本年度の運営推進会議は、第1回(4月)は集会でしたが、以降6月、8月、10月は書面開催としています。所内で2ヶ月分の活動をまとめ、その後メンバーに配付及び電話で意見交換をおこない、代替としています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は市町村の窓口に出向く機会を増やし、協力関係を築く努力をしている。	日頃から周辺事業所の意見や地域包括支援センターの助言を仰ぐよう努めており、区役所窓口も質問しやすく助けられています。それでも昨年の実地指導では加算のとり違いがあることが判り、今後は指摘がないよう十分留意することとして猛省しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしていない。身体拘束に関する勉強会を開催し全職員の理解が深まるよう努力している。	身体拘束未実施減算に係る委員会開催は、運営推進会議と併催しています。「拘束を必要とする状況」「医師の意見・指示」「判断理由・根拠」を詳らかにするシートもオリジナル作成しており、グレーゾーンに及んで真摯に本件に向き合う姿勢に好感が持たれます。	現在、鈴などのレベルも拘束と表記していますが、拘束であるならば3要件の書類を用意したうえで家族の同意や行政報告も必要となるため、「拘束表記の線引き」を見直すことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて高齢者虐待防止法について学び、マニュアルにも虐待発見時の対応を記載し、職員の意識を高めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員個々の権利擁護に関する制度への理解はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には家族・保証人に来所して頂き、退所時の事まで説明し納得してもらっている。入居後、入居者の状況に応じて書類の再確認もしてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当制を作り利用者、家族との関係づくりに努め、意見、要望を伝えやすい環境を作っている。意見、要望があればすぐに対応できるように努めている。	毎月発行される「なの花便り」は、所内の状況や本人の生活ぶり、健康状態などが判るとして、家族に好評です。「優しく」「明るく」「親切」と、家族アンケートでは異口同音に評価され、訪問しやすい事業所として家族に親しまれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は管理者に伝えられている。代表者と管理者も定期的に話し合いを行っている。	「ゴミ出し場の網をかける」「脱衣所に温度差がないように」といったこまめなことに気が廻る職員集団です。その意欲を護り育てるためにも、管理者が法人との懸け橋となって職員意見を大事にしており、その熱意を受け止めている職員の気持ちも一つになっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が、職員個々の努力や実績を代表者に伝え、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、研修の機会を確保してくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部との交流機会はないが、同じ事業所内との交流はある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、要望などを聞いて、ケアプランを立案している。入居日は面談を行った職員が対応できるように、勤務体制を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から要望や不安を聞いて、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談を行い、福祉用具などの他サービスの利用も勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活を把握し、できる事、好きな事を職員と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子を毎月、担当職員から家族へ伝えていく。ご家族の理解を得て、協力を得ながら共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族が馴染みの場所への外出に協力してくれている。	コロナ前には家族は自由に出入りしていて「あれ、いつのまにか座ってらっしゃる…」ということも間々あり、愛犬の来訪も歓迎していました。現在は1階の事務所の窓越しで会ってもらったり、2階から手を振るといった光景に変容しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握した食卓の席の配置。行事の際には仲の良い入居者同士で楽しめるような工夫もしている。合同でのレクリエーションではフロア関係なく会話が弾むような工夫もしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の相談や支援はしていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情から思いを汲み取り、希望や意向の把握に努めている。困難な場合は、生活史等も参考にするため、ご家族に記録を記入してもらっている。	94歳と99歳の利用者は、「健康な毎日がある」証として壮健ぶりを発揮しており、くじ引きで射幸心をくすぐったり、バイキングでアレコレ選択する機会を作ったりと、弾みのある暮らしとなるよう支えていることは「なの花便り」から十二分に受け止めることができます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に御家族から詳しい生活歴等を記入してもらっている。個人ファイルを作成し全ての職員が活用できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事や入浴など、個々の生活のペースに沿って過ごしてもらっている。状態の変化も日々の記録や申し送りにて情報共有ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを作成後、ご家族にも要望や意見がないか確認をして、意向を反映するようにしている	介護計画書は最新版を事務所に置いて職員がよく確認できるようにしていますが、過去のものは全て棚の中です。使い方については一長一短あるも、職員はこの方法が慣れており、現状困ることもなく、実施指導でも許容されています。	訪問リハビリテーションを使用する例もあり、実際家族もよく関わってくださいますが、今後はさらに担当者欄に介護職員以外の人が増えることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は記録に残し定期的にケアについての評価を行っている、介護計画の作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関や訪問リハビリ等の専門職からアドバイスを受けながら連携を計りその時のニーズに合わせて対応できるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会長、民生委員に推進会議に参加してもらい地域の情報は得ているが活用には至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に本人、ご家族にかかりつけ医をどうするか相談をしている。状況に応じてかかりつけ医、職員、家族との面談も行い納得して医療を受けられるようにしている。	月2回の訪問診療をおこなう協力医に13名が変更しています。在宅の頃からのかかりつけ医と専門医への通院介助は家族にお願いしていますが、難しいとなれば事業所で代行しています。また、症状の進行から、家族と受診方法を替えることを相談しあうこともあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週金曜日に坂の上クリニックの訪問看護を依頼している。細かい状態報告ができるよう訪問看護用の記録を作成し、看護師との連携がとれるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護状況がわかるように情報提供シートを作成している。医療機関の相談室や医療連携室と連携を取り、退院前に必要があれば病院と面談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常に状態の報告を行い、状態に変化があれば医療対応確認表をもとに再確認も行っている。重度化した場合や終末期にはかかりつけ医、家族、管理者と面談を行い方針を決めている。	事業所の外観も相まって「別荘だね」という利用者もおり、家族も気兼ねなく出入りしているだけあって、「最期まで此处で…」との意向は強く、家族・本人の気持ちに応じて家族が宿泊するための布団も備えています。本年6月にも看取りがあり、家族と力を併せて見送っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに基づき、緊急時の対応方法、事故発生時の対応等について勉強会を行っている。今後も定期的に勉強会を行い実践力を見につける様努めていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、それに基づいて防災訓練を行っている。夜間を想定した訓練、設備の改善はできていない。	訓練は管理者と防災委員とで準備し、設定は火災での日中想定で実施しています。水害想定では下から上への避難訓練もおこない、大停電での経験も踏まえて備蓄(飲料水は1名1ケース、非常食は7日分等)は潤沢です。	次の2点を期待します。①夜間想定の実施 ②設備の改善

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個々の性格を理解し声掛けを工夫しているが、今後も細心の配慮をしていく必要がある。	リクライニングの車いすを利用する人も「トイレ」を可能としていますが、一方で立位が保てるのに扉を閉めることが億劫だったり、うっかりしてしまう職員がゼロとなるよう、管理者を中心に注意し合っています。また、臭いは皆一様に気になることのため、除去には力を入れています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の状態に合わせた自己決定の支援を行い、その人らしい日常生活が送れるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の生活リズムを把握し、それに沿って過ごしてもらえよう支援している。外出等の希望があればご家族の協力を得て出来るだけ希望に添えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が衣替えを行い季節に合わせた服装が出来るようにしている。誕生日やイベント時のプレゼントにはその人に合った洋服を送っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みや食事形態(刻み・ペースト食)に配慮している。職員も一緒に同じものを食卓でとり食事が楽しめるような配慮をしている。	月2回「お刺身の日」があり、週1回は夕食をテイクアウトにするといった「お楽しみ」を定期で設けるほか、5月には庭の柏の葉で柏餅を作ったり、手作り餃子パーティーでは利用者も包む作業を手伝っており、食の場が充実しています。	検食簿がマンネリ化していないか、改めて見直して適正運用につなげることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は盛り付けを工夫し食事の意欲が出るよう配慮している。食事量が少ない方には好みのもので補食が出来るよう工夫している。お茶以外にジュースなども提供し水分量が確保できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを行っている。義歯の方は入れ歯洗浄剤も使用し義歯の清潔に配慮している。本人の力に応じてマウスウォッシュ等を利用して口腔内の清潔保っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人に合わせた排泄支援を行っている。排泄パターンを把握し時間を見てのトイレ誘導など個々にあった対応に努めている。	排泄チェック表をつけてリズムを掴むことでの確かな声かけとなり、失敗が減ってリハパンツから布パンツに向上した例もあります。また「夜間はダブルでも、日中はしない」「おむつは夜間のみ」といった向上は、家族の経済的負担の軽減にも寄与しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行運動の声掛けを行っている。朝食には牛乳やヤクルトを提供し飲食物の工夫に努めている。下剤の内服もしているが排泄状況を把握し調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本、一日おきの入浴をしている。入居者の体調や気分に合わせて負担のない入浴ができるようにしている。入浴剤やゆず風呂などで楽しむ工夫もしている。	職員とのおしゃべりが楽しみとする人が多く、お風呂はコミュニケーションをたくさんとる場と成っています。「皆が居るところでは話づらい」と想いを吐露されることもあり、比較的長湯となってしまうため、職員は利用者本人の身体にも配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は特に決めておらず、居室で自由に過ごしてもらい個々のペースで就寝時間が決まっている。日中も居室や居間で自由に休息がとれるような環境を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての内服薬や外用薬を職員全員が理解する事は難しいが、薬に関するファイルを作成しその都度、確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の片付けや洗濯たみができる入居者は職員と一緒にいる。誕生日には誕生会を行い皆でお祝いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	思うような外出支援はできていない。	以前は初詣、花見などの恒例外出もありましたが、本年4月の佐鳴湖へのピクニックも中止となり、現在は陽の当たる場所ですっきり過ごすことがほとんどです。散歩に誘っても「面倒くさい」と断られてしまうあり様で、気分を導き出して室内を歩いてもらう等の工夫に留まっています。	観光地のグルメを取り寄せたり、植物図鑑で季節の花を眺めたり、DVDで観光巡りなど、「出かけない外出」や数人ずつの「降りないドライブ」の推進を期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自己管理している入居者はいるが、使う機会はほとんどない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状を入居者と一緒に作成し送っている。ご家族や友人から手紙や絵葉書が届く事がある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、食卓には花を飾り季節感を取り入れている。生活感のある中で明るく家庭的な雰囲気気を大切にしている。	朝は掃除機と拭き上げ、昼食後再び拭き、15時のおやつ後掃除機、夕食後また拭くというように始終掃除に努めているだけあって、家族アンケートでも「清潔」と評価を受けています。また職員が和やかな雰囲気を醸し出していることも快適さに花を添えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースには食卓以外にソファを置き、和室も開放している。食卓は気の合う入居者同士で過ごせるよう席の配置を工夫し談笑できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドは介護用ベッドを利用している。居室にはご家族が作ってくれた壁飾りや、思い出の品を飾り、好みの雰囲気で過ごせるように工夫している。	テレビや座椅子、仏壇など馴染みの持ち込みがありますが、ADLや症状の変化でレイアウトを変えることもあります。「会えないから…」と、家族の様子が分かるようアルバムに仕立てて家族が届けてくださった例もあり、入居後も家族と2人3脚で居心地を考えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレには手すりを設置しており居室やトイレには表札を付けて、分かりやすくしている。夜間はトイレに起きる入居者が多い為、洗面所の電気を常に点けて安全に配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277101693		
法人名	(有)ありずう		
事業所名	グループホーム なの花		
所在地	静岡県浜松市中区早出町1200-25		
自己評価作成日	令和2年10月12日	評価結果市町村受理日	令和3年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=2277101693-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年11月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員一人一人が入居者と生活を共にしている事を意識し、家庭的な雰囲気大切に一緒に過ごしている。気持ちよく生活ができるように毎日、掃除を行い清潔を保っている。ほぼ全員の入居者、ご家族がここでの看取りを希望されており、ADLの低下や体調の変化があればその都度、面談や聞き取りを行い、ご本人、ご家族も安心して終末期を迎えられるよう支援している。外出ができない為、手作りゼリー、流しそうめん、工作など、室内で楽しめる行事に力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から18年と歴史が長く、現在の管理者も17年勤務(管理者となつてからは6年)、とにかく職員が「お年寄りが好き」という人で占めているという、創成期の宅老所を想起させる貴重な事業所です。日中は鍵をかけず、家族が自由に入出入りしており、「親身」「明るい」「親切」「清潔」etc.と、アンケートに踊る職員賛辞には、家族の理解が得られる真摯な姿勢がフロアに満ちていることが滲みます。寝たきりや車いすとなつても、また終末期に入つても、たとえ飯は食べれなくても、リビングでさざめき合う人の中で過ごしてもらえよう職員総意であたり、来る正月には恒例となつたおせちづくりに皆で取組む予定です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めの勉強会で理念の確認をしているが全職員が実践にはつなげられていない。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。地域の防災訓練や行事には参加させていただいているが日常的な交流は少ない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談は随時受け付けているが、今のところ相談のみの利用はない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	質疑応答の時間を設け、現場の意見や他施設の情報を聞き、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は市町村の窓口に出向く機会を増やし、協力関係を築く努力をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしていない。身体拘束に関する勉強会を開催し全職員の理解が深まるよう努力している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて高齢者虐待防止法について学び、マニュアルにも虐待発見時の対応を記載し、職員の意識を高めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員個々の権利擁護に関する制度への理解はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には家族・保証人に来所して頂き、退所時の事まで説明し納得してもらっている。入居後、入居者の状況に応じて書類の再確認もしてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当制を作り利用者、家族との関係づくりに努め、意見、要望を伝えやすい環境を作っている。意見、要望があればすぐに対応できるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は管理者に伝えられている。代表者と管理者も定期的に話し合いを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が、職員個々の努力や実績を代表者に伝え、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、研修の機会を確保してくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部との交流機会はないが、同じ事業所内との交流はある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、要望などを聞いて、ケアプランを立案している。入居日は面談を行った職員が対応できるように、勤務体制を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から要望や不安を聞いて、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談を行い、福祉用具などの他サービスの利用も勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活を把握し、できる事、好きな事を職員と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子を毎月、担当職員から家族へ伝えていく。ご家族の理解を得て、協力を得ながら共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族が馴染みの場所への外出に協力してくれている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握した食卓の席の配置。行事の際には仲の良い入居者同士で楽しめるような工夫もしている。合同でのレクリエーションではフロア関係なく会話が弾むような工夫もしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の相談や支援はしていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情から思いを汲み取り、希望や意向の把握に努めている。困難な場合は、生活史等も参考にするため、ご家族に記録を記入してもらっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に御家族から詳しい生活歴等を記入してもらっている。個人ファイルを作成し全ての職員が活用できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事や入浴など、個々の生活のペースに沿って過ごしてもらっている。状態の変化も日々の記録や申し送りにて情報共有ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを作成後、ご家族にも要望や意見がないか確認をして、意向を反映するようにしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は記録に残し定期的にケアについての評価を行っている、介護計画の作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関や訪問リハビリ等の専門職からアドバイスを受けながら連携を計りその時のニーズに合わせて対応できるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会長、民生委員に推進会議に参加してもらい地域の情報は得ているが活用には至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に本人、ご家族にかかりつけ医をどうするか相談をしている。状況に応じてかかりつけ医、職員、家族との面談も行い納得して医療を受けられるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週金曜日に坂の上クリニックの訪問看護を依頼している。細かい状態報告ができるよう訪問看護用の記録を作成し、看護師との連携がとれるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護状況がわかるように情報提供シートを作成している。医療機関の相談室や医療連携室と連携を取り、退院前に必要があれば病院と面談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常に状態の報告を行い、状態に変化があれば医療対応確認表をもとに再確認も行っている。重度化した場合や終末期にはかかりつけ医、家族、管理者と面談を行い方針を決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに基づき、緊急時の対応方法、事故発生時の対応等について勉強会を行っている。今後も定期的に勉強会を行い実践力を見につける様努めていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、それに基づいて防災訓練を行っている。夜間を想定した訓練、設備の改善はできていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個々の性格を理解し声掛けを工夫しているが、今後も細心の配慮をしていく必要がある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の状態に合わせた自己決定の支援を行い、その人らしい日常生活が送れるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の生活リズムを把握し、それに沿って過ごしてもらえるよう支援している。外出等の希望があればご家族の協力を得て出来るだけ希望に添えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が衣替えを行い季節に合わせた服装が出来るようにしている。誕生日やイベント時のプレゼントにはその人に合った洋服を送っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みや食事形態(刻み・ペースト食)に配慮している。職員も一緒に同じものを食卓でとり食事が楽しめるような配慮をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は盛り付けを工夫し食事の意欲が出るよう配慮している。食事量が少ない方には好みのもので補食が出来るよう工夫している。お茶以外にジュースなども提供し水分量が確保できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを行っている。義歯の方は入れ歯洗浄剤も使用し義歯の清潔に配慮している。本人の力に応じてマウスウォッシュ等を利用し口腔内の清潔保っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人に合わせた排泄支援を行っている。排泄パターンを把握し時間を見てのトイレ誘導など個々にあった対応に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行運動の声掛けを行っている。朝食には牛乳やヤクルトを提供し飲食物の工夫に努めている。下剤の内服もしているが排泄状況を把握し調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本、一日おきの入浴をしている。入居者の体調や気分に合わせて負担のない入浴ができるようにしている。入浴剤やゆず風呂などで楽しむ工夫もしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は特に決めておらず、居室で自由に過ごしてもらい個々のペースで就寝時間が決まっている。日中も居室や居間で自由に休息がとれるような環境を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての内服薬や外用薬を職員全員が理解する事は難しいが、薬に関するファイルを作成しその都度、確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の片付けや洗濯たみができる入居者は職員と一緒にしている。誕生日には誕生会を行い皆でお祝いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	思うような外出支援はできていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自己管理している入居者はいるが、使う機会はほとんどない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状を入居者と一緒に作成し送っている。ご家族や友人から手紙や絵葉書が届く事がある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、食卓には花を飾り季節感を取り入れている。生活感のある中で明るく家庭的な雰囲気気を大切にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースには食卓以外にソファを置き、和室も開放している。食卓は気の合う入居者同士で過ごせるよう席の配置を工夫し談笑できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドは介護用ベッドを利用している。居室にはご家族が作ってくれた壁飾りや、思い出の品を飾り、好みの雰囲気で過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレには手すりを設置しており居室やトイレには表札を付けて、分かりやすくしている。夜間はトイレに起きる入居者が多い為、洗面所の電気を常に点けて安全に配慮している。		